

JAVISA 高視認服普及へ意識新たに 会員総会「安全創造会議」開催

日本高視認性安全服研究所（JAVISIA）は23日、第6回目の会員総会を都内で開催した。「安全創造会議」のタイトル

で毎年1回、講演や会員の活動報告などで高視認安全服普及に向けて意識と知識を新たにします。今回は防災用品としての必要性、正しい洗濯方法、SDGs（持続可能な開

発目標）やサステイナブル（持続可能な）への対応といった旬のテーマを取り上げた。

高視認性安全服は現在、JIS（日本工業規格）T8127と一般利用者向け高視認性安全服規格JSA A2001があり、さまざまな製品が開発されている。JAVISIAの普及・啓発活動

は製品の適切な選び方や取り扱いなど、より実用的な段階に進んでいる。

特別講演では、文化学園大学講師の小柴朋子氏が「災害時に向けた備蓄と日常用高視認性安全服の必要性」の演題で登壇。災害時の衣服に関する研究、地震災害時の実例を紹介し、不測の災害に備えるための日常用衣服の高視認性の必要性を説いた。

JAVISIA本部の活動報告として吉井秀雄代表理事が、「高視認性安全服の適正な洗濯対応について」を発表。本格的な検証試験を基に、ピーズ式／プリズム式の洗濯後の物性を調べ、これに基づき、家庭洗濯、商業用クリーニングの際の注意点をまとめた。

今回は特別会員緊急提案として、日本環境設計の日比伸一郎ゼネラルマネージャーが「高視認性安全服の今すべきことSDGs・サステイナブルの活用」として、地域や社会、環境に貢献する製品としての高視認性安全服の役割と可能性を示唆した。